

「東叡山寛永寺 歴史を歩く」

2021年10月27日（水）実施 JGA 第一支部研修終了レポート

第一支部運営委員会

今回は東叡山寛永寺真如院住職大多喜義慶師のご協力を得、一般公開されていない徳川歴代将軍御霊廟を拝観し、江戸幕府最後の将軍・徳川慶喜公が2か月にわたって謹慎されていた「葵の間」を見学、さらに寛永寺由来のお堂・史跡をめぐる企画を立てました。



会員の皆様の興味をひいたようで、募集開始後すぐに定員いっぱいになり、キャンセル待ちの方が十数名という人気企画になりました。

当日はあいにく小雨模様の天気となりましたが、31名（会員29名、委員2名）が参加しました。最初に根本中堂で、寛永寺の歴史、江戸時代の壮大な寛永寺境内の解説を伺い、般若心経の読経、その後、事前に提出していた参加者からの質問に、教化部の石川亮岳執事が丁寧に回答してくださいました。質問は多岐にわたっていましたので、ガイドとして寛永寺、上野公園だけでなく、仏教、天台宗などを、外国人に説明するにあたって、とても参考になるお話が聞けたと思います。

慶喜公由来の「葵の間」、また徳川家ご霊廟も、通常自由に拝観できない所を解説付きで見学できたのは、JGA研修ならではの体験でした。但し、室内とご霊廟は撮影禁止です。



その後、清水観音堂まで移動。江戸時代の将軍の菩提寺としての格式の高い寛永寺の一面と、庶民が足を踏み込める地区の清水観音堂など、当時のテーマパークのような別の一面を見ることができます。広重の名所江戸百景に見られる「月の松」を再現させようという試みの企画者が、今回お世話になりました真如院住職の大多喜義慶師でいらっしゃいます。



清水観音堂でも、通常入っていただけないご住職の方々が衣替えをされる部屋でお茶をいただきながら、清水堂輪番でもいらっしゃる大多喜師のお話を伺うことができました。

今の上野公園が江戸時代往時の姿をしていたら、世界遺産として素晴らしい地であったことが想像できます。東京ドーム21個分の広大な敷地面積を誇った江戸時代の寛永寺が、幕末の彰義隊の上野戦争、関東大震災、第2次世界大戦を経て、今の上野公園として、芸術を楽しみ、桜を愛でる平和な地となっていく変遷を、再確認できたのではないのでしょうか？

